

文化財保存全国協議会（文全協）主催

第17回文全協歴史講座

日本最大の前方後円墳である大山（だいせん）古墳（堺市）で3月7日、文化財保存全国協議会（文全協）を含む歴史・考古学系の17学・協会の代表者が墳丘に立入り、現状を観察しました。このたびの歴史講座は、大山古墳の立入り観察報告を中心に、「陵墓」をテーマに企画しました。

▲大山古墳の円丘部 3 段目（北から）

日時 2025年 **6**月**7**日(土) 13:30~16:30

会場 **奈良市ならまちセンター 会議室2・3・4**

奈良市東寺林町 38 番地 (TEL 0742-27-1151)

JR 奈良駅東口より東へ徒歩 15 分 / 近鉄奈良駅より南東へ徒歩 12 分

事前申込不要・定員 90 名

資料代 500 円

まつだわたる

講師：松田度氏（文全協陵墓委員）

陵墓公開運動の到達点—堺市大山古墳の立入り観察を中心に—

文全協の陵墓問題特別委員会（陵墓委員 6 名）は、陵墓関係 17 学・協会の連名で陵墓の公開運動に取り組んでいる。今回は 3 月 7 日に実施された堺市大山古墳の立入り観察を中心に報告する。

おがさわらよしひこ

講師：小笠原好彦氏（滋賀大学名誉教授・文全協前代表委員）

飛鳥に天皇陵が築造できた歴史的背景を考える

推古天皇以降、飛鳥が宮都となってから、飛鳥の地に天皇陵が築造されたのは、天武天皇が初めてだった。飛鳥の地は天皇陵を築造できない土地だったのである。飛鳥と天皇陵築造の歴史的背景を考えてみる。*推古・舒明・皇極（斉明）・孝徳・天智の墓は、飛鳥にはない。ただし、この飛鳥は高取川の西の越智丘陵を含まない、飛鳥の中心部という意味で使用する。



【問い合わせ先】 文全協事務局 杉田 義(ただし) TEL・FAX 0743-52-1404